

事業の実績	『子ども家庭福祉学科学生の特性を生かした子どもの居場所づくり活動 2.0』
<p>子どもの居場所づくり活動報告</p> <p>第1回 令和元年5月25日(土) てるてる坊主になろう</p> <p>第2回 令和元年6月29日(土) 七夕祭り</p> <p>第3回 令和元年8月24日(土) 夏祭り</p> <p>第4回 令和元年9月21日(土) ミニ運動会</p> <p>第5回 令和元年10月26日(土) ハロウィーン</p> <p>第6回 令和元年11月16日(土) 落ち葉で製作</p> <p>第7回 令和元年12月21日(土) クリスマスパティー</p> <p>第8回 令和2年1月11日(土) ミルク餅</p> <p>第9回 令和2年2月29日(土) ひなまつり 中止</p> <p>第10回 令和2年3月14日(土) 中止</p>	
具体的な成果	<p>本事業は、社会福祉学部子ども家庭福祉学科の学生が、その特性（子どもと遊びをとおして関わる中で、子ども自身やその子どもを取り巻く家庭の問題に気づき、その問題や課題に向き合える能力）を生かし、地域の子育て支援の課題解決に挑戦する中で、地域文化の継承と学生自身の保育者としての実践力の向上並びにキャリア形成につなげていくことを目的としている。前年度の活動の成果を引き継いでいずれの回も子どもたちが多く参加してくれ、居場所づくり活動の当初の目標を達成することができた。学生も子どもたちにその回の活動の目標を伝えて意欲を持ってもらうなど、基本的な保育の関わりを重ねて様々な技術を学ぶ経験を積むことができた。また、子どもたちの様子の観察、安全確保、配慮など、子どもたちとの活動運営の基本を実践的に学ぶことができた。後半、子どもカフェの活動に取り組み、「新1号館みらい」の調理実習室を使用しておやつづくりに取り組んだ。新型コロナウイルスの流行により、第9回、第10回と本格的に展開する前に中止となり、子どもたちとおやつを作って一緒に楽しむ「子どもカフェ」の活動は、十分にはできなかったが、みるく餅をおやつとして子どもたちと頂き、和やかな時間を持つことができた。この他、他団体視察、交流活動として、熊本市が開催した「子ども未来応援基金助成金」の成果発表会に参加し、子ども食堂等を運営する他団体の活動の実際についての発表を聴取し、交流した。</p> <p>居場所づくり活動において、子どもたちが地域の安心・安全な場所で多くの仲間と関わり楽しい時間を過ごすこと、毎月1回、土曜日の午後にそこに集まってワクワクする時間が始まると期待できることなど、地域の中で学校、家庭の枠を離れた伸び伸びと活動できる時間と空間を提供できた。このことは地域における子育て支援の一翼を担う活動として意義あるものであったと評価できる。今後、形を変えながらも熊本学園大学社会福祉学部子ども家庭福祉学科が地域とともに歩む姿勢を示し、地域の皆様の理解と協力を得て更なるチャレンジを続けたい。</p>